勤医協中央病院

整形外科専門医研修プログラム

（2026 年 3 月 5 日専門医研修プログラム管理委員会確認）

※2026 年 6 月 3 日プログラム名称の変更

北海道民主医療機関連合会　　医師研修委員会

北海道勤労者医療協会勤医協中央病院　整形外科専門医研修委員会

はじめに

北海道民主医療機関連合会（以下、北海道民医連）では、これまで独自の研修により、北海道のみならず日本中に多くの医師を輩出してきました。同連合会に加盟する多くの施設で研修を受け入れ、教育の実践を積み重ねてきました。北海道民医連に加盟する医科法人は、北海道勤労者医療協会、道北勤労者医療協会、道南勤労者医療協会、道東勤労者医療協会、十勝勤労者医療協会、オホーツク勤労者医療協会の 6 つがあります。各々の法人の担い手を、各々の法人が互いに協力、連携して研修を受け入れ、養成してきました。

わが国の専門医を規定する枠組みが大きく変わり、専門医を目指す医師は第三者機関（日本専門医機構）により認定を受けた研修施設で、同機構により認定された研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに則った研修（専門医研修）を行うことが必須となりました。

北海道民医連では、整形外科専門医研修を整備するため、多くのｽﾀｯﾌや患者、地域共同組織の方が参加し議論してきました。その議論により、「北海道民医連の医師が目指す医師像 7 つ星」（①総合性と専門性「健全なｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ」、②安全で質の高い医療、③地域ｺﾐｭﾆﾃｨｹｱ、④ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、⑤ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾘｽﾞﾑ、⑥学術研究と教育、⑦ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ）が生み出され、北海道民医連の全ての医師がこの理想に近づき、ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰを獲得できるよう努力することが確認されました。また後期研修に関する議論の中でとくに重視されたことは、後期研修は専門医資格を取得するためのものではなく、医師としての生涯においてどのようなことを行うのかを考え、その基礎となる知識や技術を習得し、ひとりのﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙとして成長するということです。専門医研修はその核となる研修となりますが、その一部を構成しているにすぎません。専門医資格取得を第一の目標とした知識・技術偏重ではなく、次の時代の医療を担いうる人材としての成長が最も重要です。

本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは、これまでの北海道民医連の後期研修の積み重ねを元に作成されました。研修医のみならず指導医もこのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを意識した診療を行うことで、北海道民医連の医療が更に飛躍することを期待するものであります。

北海道民主医療機関連合会　　医師研修委員会
北海道勤労者医療協会勤医協中央病院　整形外科専門医研修委員会

目次

1. 整形外科専門医研修の理念と使命
2. 整形外科専門医研修後の成果
3. 整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの目標と特徴
4. 研修方法
4.1 基本方針
4.2 研修計画
・専門知識の習得計画
・専門技能の習得計画
・経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ全体と連携施設におけるｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
・ﾘｻｰﾁﾏｲﾝﾄﾞの養成計画
・学術活動における研修計画
・ｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰの研修計画
・地域医療に関する研修計画
・ｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域との連続性について
4.3 研修およびﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの評価計画
・専攻医の評価時期と方法
・専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の運用計画
・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとしての FD(Faculty Development)の計画
・専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの改善方法
4.4 専攻医の就業環境の整備機能
4.5 整形外科研修の休止、中断、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの移動、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ外研修の条件について
4.6 修了要件
5. 研修ｽｹｼﾞｭｰﾙ、研修ﾛｰﾃｰｼｮﾝ、専門研修施設、指導医
6. 専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門医研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正

しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、ｽﾎﾟｰﾂ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった偏りのない医療を提供する使命があります。

一方、北海道は医師不足地域であり、また、高齢者人口比率の高い地域でもあります。この地域においては、整形外科の果たす役割が今後もますます大きくなることが予想され、したがって、質の高い整形外科医療が求められ、それを担う人材の育成が必要となります。

このﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでは、北海道大学病院および札幌医科大学病院と連携しながら、地域医療に貢献できるﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱから療養・介護を含む老人医療を担える、幅広い視野をもった整形外科医を育てることを目標とします。

2. 勤医協中央病院整形外科専門医研修後の成果

勤医協中央病院整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と、高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、地域医療を中心とした研修によって、専攻医は研修期間中に以下のｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰも習得できます。

1）患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を磨くこと 。

2）自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾘｽﾞﾑ）。

3）診療記録の適確な記載ができること。

4）医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。

5）臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。

6）ﾁｰﾑ医療の一員として行動すること

7）後輩医師に教育・指導を行うこと 。

8）地域医療における包括的なﾁｰﾑ医療の一員としての役割を学ぶこと。

3. 勤医協中央病院整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの目標と特徴

【地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師をめざして】

勤医協中央病院整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」としています。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえたわが国においては、整形外

科への期待はますます大きくなっています。その中でも北海道は、高齢化人口比率の高い地域であり、地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでは、高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したﾁｰﾑ医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師をめざします。

医師不足地域である北海道において、札幌市を 2 次医療圏とする勤医協中央病院は北海道大学病院整形外科および札幌医科大学病院整形外科と連携し、専門的な研修が出来るように配慮されています。

連携施設は、ｽﾎﾟｰﾂ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝなどそれぞれに特色をもった大学、病院があり、当ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑもそれら施設と連携し研修することにより、ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した外科医として診療が出来ることをめざします。

勤医協中央病院整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは、専攻医の皆さまに素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修をめざします。

4. 研修方法

：参照資料　整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html

4.1 基本方針

整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修ｶﾘｷｭﾗﾑ」に沿って、勤医協中央病院および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員ﾏｲﾍﾟｰｼﾞを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したｶﾘｷｭﾗﾑ成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にｶﾘｷｭﾗﾑ成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、ｶﾝﾌｧﾗﾝｽの際に専攻医に対して教育的な建設的ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑおよび専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会はｻｲﾄﾋﾞｼﾞｯﾄを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門医研修は 1 カ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全ｶﾘｷｭﾗﾑを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、ﾘｳﾏﾁ、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、ｽﾎﾟｰﾂ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をﾛｰﾃｰｼｮﾝすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 カ月で 45 単位を修得する修練ﾌﾟﾛｾｽで研修します。

① 専門知識の習得計画

本研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでは、専門知識を整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修ｶﾘｷｭﾗﾑ」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 カ月毎に評価します（自己評価および指導医評価)。専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したﾃﾞｰﾀをまとめた評価表(図 1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのｾﾐﾅｰを専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会が開催します。

② 専門技能の習得計画

本研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでは、専門技能を整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修ｶﾘｷｭﾗﾑ」に沿って研修し技能能習得状況を 6 カ月毎に評価します（自己評価および指導医評価)。専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したﾃﾞｰﾀをまとめた評価表（図 1）を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのｾﾐﾅｰを専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会が開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修ｶﾘｷｭﾗﾑ」に明示された症例数以上を勤医協中央病院および連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ全体と各施設によるｶﾝﾌｧﾚﾝｽ

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻

医の知識・技能習得のためのｾﾐﾅｰを専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会が企画・開催します。

⑤ ﾘｻｰﾁﾏｲﾝﾄﾞの養成計画

連携する北海道大学病院の研修においては、臨床面での指導・助言だけではなく、専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの早い段階から研究ﾃｰﾏの立案を共に行い、学会発表から論文作成までをｻﾎﾟｰﾄします。また札幌医科大学病院では、すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するｶﾝﾌｧﾚﾝｽ「ｳｲﾝﾀｰｾﾐﾅｰ」を年１回開催します。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年１ 回以上、また論文執筆を年１ 本以上行えるように指導します。専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年１ 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ ｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（ｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（ｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸをすることによって基本的診療能力（ｺｱｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ）を早期に獲得させます。

勤医協中央病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年１ 回、専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの研修施設群の中核は、北海道の医師不足地域を含む中小病院となります。したがって、すべての専攻医は連携する大学病院での研修以外は、北海道の医師不足地域を含む中小病院で研修を行います。

⑨ ｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域との連続性について

整形外科専門医のｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本ﾘｳﾏﾁ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。これらｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域の研修施設、人工関節手術等に実績のある施設が含まれています。整形外科専門医研修期間からこれらのｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域の研修を行うことができ、専攻医のｻﾌﾞｽﾍﾟｼｬﾙﾃｨ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 カ月に 1 回行い、(9 月末および 3 月末) 専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会に提出します。

他職種も含めた勤医協中央病院および各研修施設での研修評価 (態度も含めた総評) を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会に提出し、専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会で評価します。

上記の総評を専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の運営計画

専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門医研修指導責任者を委員とします。

勤医協中央病院に専門医研修管理委員会事務局を置き、専門医研修管理に係る財務・事務を行います。

年 3～4 回の定期委員会を開催し、年度末 3 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。また、必要時に臨時委員会を開催します。

専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで公開します。

③ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医ﾏﾆｭｱﾙ」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのｾﾐﾅｰを専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会に報告します。

④専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの改善方法

専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)

専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は、専攻医に対するｱﾝｹｰﾄと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの移動、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 カ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの移動に際しては、移動前・後のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
③臨床医として十分な適性が備わっていること。
④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修ｽｹｼﾞｭｰﾙ、研修ﾛｰﾃｰｼｮﾝ、専門研修施設、指導医

勤医協中央病院では整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修ｶﾘｷｭﾗﾑ」にあるすべての分野を研修することができます。医師不足地域である北海道の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【勤医協中央病院週間予定】

	月	火	水	木	金	土	日
朝	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	研修医 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	術後検討会 ﾌｨﾙﾑｶﾝﾌｧ	整形外科 医師会議	術後検討会	（回診）	休診
午前	回診	手術	回診	手術	回診	病棟	
午後	病棟	手術	病棟 術前検討会	手術	外来	休診	
夜			抄読会	医局会議 木研会			

＊専攻医は、基幹病院研修期間において、「外傷」・「脊椎」・「関節」・「手」の各専門の外来・手術を指導医の指示の元に担当する。
＊月に一回、症例発表のｸﾘﾆｶﾙｶﾝﾌｧﾗﾝｽを行う。

【本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの連携施設群】

本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを構成する 11 の研修連携病院は、多くの研修単位を取得可能な大学病院、多くの症例を経験可能な地域中小病院、他に地域研修病院があり、地域に根ざした医療研修が経験できるように配慮しています。このうち「勤医協苫小牧病院」、「釧路協立病院」「済生会小樽病院」「釧路労災病院」は、北海道の医師不足地域中小病院に該当します。関節・ｽﾎﾟｰﾂ・脊椎・小児・手の外科などの専門研修も可能な特徴ある施設群を有しており、専攻医の希望に応じて、取得単位を勘案しながらﾛｰﾃｰｼｮﾝする機会を提供します。また連携する 1 型基幹病院である北海道大学病院および札幌医科大学病院での6～12カ月間の研修において、ﾘｻｰﾁﾏｲﾝﾄﾞを学び、一般病院で経験することの出来ない多くの症例を経験する機会を提供します。

それぞれの施設研修可能分野と特徴的な研修分野を示します。専攻医の希望を考慮し、各単位・小児整形・腫瘍・地域医療研修などのﾛｰﾃｰｼｮﾝ表と専攻医毎の年次別単位取得計画を作成し提示します。下記に例示します。

【研修病院群と指導可能な研修領域】

No.		施設名称	指導可能な研修領域										指導医数	専攻医受入可能数
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	ﾘｳﾏﾁ	ﾘﾊﾋﾞﾘ	ｽﾎﾟｰﾂ	小児	腫瘍	地域		
1	基幹施設	勤医協中央病院	○	○	○	○	○	○					4	2
2	連携施設	勤医協苫小牧病院	○	○	○	○	○	○				○	1	1
3	連携施設	道北勤医協一条通病院		○	○		○	○					2	1
4	連携施設	釧路協立病院										○	2	1
5	連携施設	済生会小樽病院	○	○	○	○	○	○	○			○	0.1	1
6	連携施設	釧路労災病院	○	○	○	○		○	○			○	0.1	1
7	連携施設	津軽保健生協健生病院		○	○	○		○	○			○	1	1
8	連携施設	立川相互病院	○	○	○	○							0.5	1
9	連携施設	長野中央病院		○	○	○	○	○				○	1	1
10	連携施設	耳原総合病院	○	○	○	○		○					0.25	1
11	連携施設	北海道大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○		0.1	1
12	連携施設	札幌医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○		0.1	1

【研修病院別ﾛｰﾃｰｼｮﾝ表例】

			1年目	2年目	3年目		4年目	
1	基幹施設	勤医協中央病院	専攻医1		専攻医2	専攻医2	専攻医1 （専攻医2）	専攻医1 （専攻医2）
2	連携施設	勤医協苫小牧病院			専攻医1			
3	連携施設	道北勤医協一条通病院			（専攻医1）	専攻医1		
4	連携施設	釧路協立病院				（専攻医1）		
5	連携施設	済生会小樽病院	専攻医2	専攻医2				
6	連携施設	釧路労災病院	（専攻医2）	（専攻医2）				
7	連携施設	津軽保健生協健生病院	（専攻医2）	（専攻医2）				
8	連携施設	立川相互病院	（専攻医2）	（専攻医2）				
9	連携施設	長野中央病院	（専攻医2）	（専攻医2）				
10	連携施設	耳原総合病院	（専攻医2）	（専攻医2）				
11	連携施設	北海道大学病院		専攻医1	（専攻医2）	（専攻医2）	（専攻医2）	
12	連携施設	札幌医科大学病院		（専攻医1）	（専攻医2）	（専攻医2）	専攻医2	
※（　　）は選択。採用後に専攻医の諸事情を考慮してﾛｰﾃｰｼｮﾝを決定する。								

＊整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修ﾏﾆｭｱﾙ」を参照して下さい。

6. 専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを支える体制

①専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの管理運営体制

2 型基幹施設である勤医協中央病院においては、指導管理責任者（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門医研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価ｼｽﾃﾑにより、互いにﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸすることによって研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの改善を行います。

上記目的達成のために勤医協中央病院に専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと専攻医を統括的に管理する整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会を置きます。

本研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ群には、1 名の整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者を置きます。

② 2 型基幹施設の役割

2 型基幹施設である勤医協中央病院は専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを管理し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加する専

攻医および連携施設を統括します。

勤医協中央病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を 1 回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を 5 年に 1 回以上受講している整形外科専門医であり、本研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の役割と権限

1) 整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は、研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの作成や研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の責任者である専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者が、整形外科専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 勤医協中央病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。勤医協中央病院に置かれたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの改善を行います。

⑤ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者の役割と権限

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされております。

1)整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2)医学博士号またはﾋﾟｱﾚﾋﾞｭｰを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。
＊ただし、2 型基幹施設は 2）の基準を除外。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。
1）専門研修基幹施設である勤医協中央病院における研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の責任者であり、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの作成、運営、管理を担う。
2）専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

7. 募集人数と応募方法および身分・待遇

1）専攻医の定員
専攻医の定員は、各学年 3 名までとします。

2）専攻医の募集
募集の期間に合わせ、下記の書類の提出を必要とします（詳細については、勤医協中央病院・医局担当事務に照会）。
①申請書
②経歴書
③初期研修評価書（現在の初期研修施設の指導医が記載）
④当専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの志望理由について、1,000 字程度の小論文にまとめる。
⑤健康診断書
⑥医師免許証のｺﾋﾟｰ

3）専攻医の選抜、採用
提出書類の審査と、専門医研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会の指導医との個人面接により、試験を行う。試験に合格した者を専攻医として採用します。ただし、初期研修を修了できない場合には、採用を取り消します。

4）専攻医の身分
勤医協中央病院の設立母体である北海道勤労者医療協会に、常勤医師として雇用されます（詳細は北海道勤労者医療協会理事会で毎年決定されます）。

5）専攻医の待遇
給与、勤務時間や休暇等の待遇に関する条件については、北海道勤労者医療協会規定によります。

以　上